

北野小学校
学校だより

松風

鷹栖町立北野小学校
文責：教頭 尾中康裕
第 5 号
令和5年8月31日

主体的な学びへ向けて

鷹栖町立北野小学校長 南山 夕子

今年の北海道の夏は、大雨が降ったり猛暑日が続いたり、暑さに慣れていない人（私のような人）には非常に厳しいものになっています。熱中症予防のため、21日からの一週間は体育の授業や外遊びを控え、下校時刻を早める等の対策を行いました。校内にある「風を起こす物」をフル稼働しましたが、暑いことには変わりはありません。ご家庭で飲み物の準備や熱中症予防グッズ等の対応をいただき、本当に感謝いたします。

さて、2学期が始まり、夏休み中に挑戦したことや楽しい出来事を輝く目で話してくれる子どもたちが多く、とても嬉しい気持ちになりました。1学期の終わりに立てた計画も実現し、遊びほうけていた子どもの頃の私とは大きな違いです。ただ、夏休み中に夢中になっていたことが一つあります。それは「電化製品の内部を見ること」です。いつから始めたかは忘れましたが、「中はどうなっているのだろう」という好奇心が抑えられず、基本的には壊れた物を分解してしまっていました。ラジオや小型テレビ、トースターなどを物置から持ち出し、中を確認した後で元に戻していたのです（親には今も内緒です）。

大人になっても、「壊れているし自分の物だから」と言いながら、デジタル時計やワープロ、ウォークマンなどさまざまな物を分解し中身を確認していました。ノートパソコンをばらした際には元に戻せず、iPodは蓋をこじ開けたままになってしまいました。細かな部品がびっちらと詰まっていたのです。これで少し警戒心が芽生え、分解の欲求は冷めてきました。最近は無闇に分解することの危険性を友人から指摘され、ここ数年は何も分解していません。もちろん、壊れた物を見たら中身を覗きたいという欲求は消えていませんが…。

なぜ私がこうしたことに興味をもったのかは、今でもよく理解できません。ただ子どもたち一人一人もきっと自分なりのこだわりや興味、疑問をもっていると思います。これは新たな発見をし、問題解決能力を培う基盤となるでしょう。子どもたちが自分の好奇心や探求心を大切にしながら学び続ける力を育むために、リスクを恐れずに挑戦し、失敗から学ぶことの大切さを理解させながら、主体的に学ぶ教育に力を注いでいきます。2学期もどうぞよろしくお願いたします。



2学期が始まりました

2学期が始まりました。今年は猛暑日が続き、毎日、児童も教師も汗だくになりながら学習を進めていました。校内での体育や外あそびを控える等の対応について「マチコミメール」で連絡させていただきました。保護者の皆様には、いつも急な連絡にも関わらず、ご対応ありがとうございました。校庭に野生のウサギも現れていましたが、あまりの暑さに3時間ほど日陰で、じっとしている様子も見られました。最近、やっと気温が下がってきたので、休み時間に元気にグラウンドで遊ぶ子どもたちが増えてきて、やっと通常の学校に戻ってきました。

さて、2学期は88日ありますが、学習や生活でのルールをしっかり守り、子どもたちにとって、実りのある学期にしていきたいと思えます。2学期も保護者の皆様のご支援、ご協力よろしくお願ひします。

オサラッペ川水質調査 & 水生生物の観察

9月1日に、川の汚染の実態や原因をとらえること、サケが帰ってくるために河川保護の必要性や実践的な行動について考えることを目的とし、5・6年生がオサラッペ川の水質調査に行きます。この調査は今年で29年目となる北野小の伝統的な行事です。当日は、福田水門センター職員の方々の協力をいただき進める予定です。子どもたちは、川に入って、川に関する様々な調査を行ったり、水生生物を捕まえたりします。その中で上流と下流での川の流れや生き物の違いを見つけていきます。この調査をとおして自分の住んでいる北野の川をこれからも大事にしていく気持ちが育まればと思えます。

教育実習生が来ています

8月28日から将来、教員になるために2人の学生が本校で教育実習をしています。たくさんいろんなことを学んで将来はぜひ鷹栖町内の教員になって戻ってきてほしいですね。

阿部さんは3週間、大野さんは4週間の実習となります。

実習生 4年配属 阿部来海さん 6年配属 大野まどかさん

9月の行事予定

- 一日 (金) オサラッペ川水質調査 (五・六年)
- 四日 (月) 朝会⑤・職員会議
- 五日 (火) 参観日 (一・四年)
- 六日 (水) ふるさと共育 (五年) ・委員会⑤
- 七日 (木) 参観日 (二・五年)
- 八日 (金) 参観日 (三・六年)
- 十三日 (水) クラブ
- 十四日 (木) 防災学校の日 (避難訓練)
- 十五日 (金) COT (一・二・三年)
- 委員会⑥
- 十九日 (火) 二計測・視力検査 (二・四・六年)
- 二〇日 (水) 委員会⑦
- 二計測・視力検査 (一・三・五年)
- 二一日 (木) COT (一・二・三年)
- 二二日 (金) ふるさと共育 (六年)
- 二五日 (月) COT (一・二・三年)
- 二八日 (木) ちびっこフュージョン (一・二年)
- 二九日 (金) ふるさと共育 (一年)

通知表配付



学校評価 保護者アンケートの結果について

回収率85% (156通)

		R4	R5前期
1	学校（先生）は子どもたちに基礎・基本を大切にわかる授業を行っていると思いますか	3.52	3.59
2	学校（先生）は、子ども一人一人に目を向けて指導していると思いますか	3.43	3.5
3	お子さんは、めあてや課題解決に向けて粘り強く取り組むことができていると思いますか	3.08	3.01
4	お子さんは、元気に楽しく学校に通っていると思いますか	3.5	3.45
5	お子さんは、本を読むのが好きですか	2.58	2.49
6	お子さんは、タブレットを使った授業が好きだと思いますか	3.39	3.32
7	お子さんは、友だちと仲良くし、思いやりのある子に育っていると思いますか	3.36	3.37
8	お子さんは、基本的な生活習慣が身についていますか （「早寝・早起き・朝ごはん」運動の取組と関連した質問です）	3.21	3.37
9	お子さんは、「自分の命は自分で守る」という意識が高まっていると思いますか	3.1	3.17
10	お子さんは、家庭でどのくらいの時間学習していますか。（全学年で学習している割合）		
家庭学習時間	60分以上	4%	12%
	50分くらい	8%	10%
	40分くらい	14%	13%
	30分くらい	30%	22%
	20分くらい	26%	22%
	10分くらい	15%	12%
	ほとんどしない	5%	7%
	その他	0%	1%

学校評価保護者の皆様(記述) から

- ・ 勉強は、もう少し質的な向上が必要と考えます。子どもが主体的にレベルアップした課題に取り組めるよう、具体的な目標共有をお願いしたいです。→毎時間、授業のゴールを確実に子どもたちと共有できるよう進めていきます。
- ・ ペーパーレスにて、学校便りがマチコミに流れるようになってるのが、とても良いです。
- ・ 長子だけが持ち帰るプリントで給食便り、保健便り等も同じように各家庭1枚での配布をお願い出来たら嬉しいです。
- ・ 縦割りの時間をもっと増やしてください。(1年生のお世話でも)→教育計画に沿って進めていきます。
- ・ chat,gpt を活用した授業も行っていったらいいと思います。例えばAIは数字が苦手ということなので、間違い探しのこともいいのではないかと思います。→文部科学省や道教委の通知の指針に沿って今後検討していきます。
- ・ 公園でボール遊びができなくなり、道路でボール遊びをしている児童がいる。危ないので安心して遊べる場所がほしい。
- ・ 保護者アンケートを受けて

読書週間と体力向上について

昨年度もそうでしたが、児童は本を読む習慣がついていないということがあります。ただ、読書習慣はないが、読書好きの児童が多いように感じます。読書の効果は、「想像力を膨らませること」「論理的な思考力」「物事を掘り下げて考える力がつくこと」「本質をとらえる力がつくこと」等、読書をすることで養われていくと言われていきます。学校では、児童に本に興味をもってもらうために、児童の興味関心が高いテーマの新刊を入れたり、日常的に学習活動の際に図書スペースを利用する活動を取り入れ、今後も継続して進めていきます。

体力向上について

休み時間は、外遊びや体育館遊びを奨励しており、休み時間に活発にグラウンドで遊んでいる児童が見られます。遠足の時に気付いたのですが、目的地にたどり着くまでに集団に遅れる児童が数名いました。北野小学校は幸か不幸か市街地から離れた歩いて登下校するには、適度に距離のある学校です。この距離を毎日登下校することにより、体力向上に繋がっていくと感じます。我が子に基礎体力をつけさせたいと強く願う保護者の方は、児童の送迎を控えることで、体力の向上にも繋がると思います。

※児童の体調や直近の猛暑の日はさすがに無理ですが。

学校いじめアンケートの結果について

いじめの問題の未然防止、早期発見、早期対応に向けた取り組みの一環として道教委のいじめ調査を6月に実施したところ3件のいじめを認知しました。学校では、いじめの解決・未然防止のため、各関係機関と連携を図り、いじめ撲滅に向けての取り組みを進めています。

児童の暴力についての対応について

1学期中に児童間の暴力、対教師への暴力、暴言が数件ありました。揉め事に対して、冷静に話し合いで解決できればとてもいいことですが、子ども同士の場合、自分の思いを言葉で表現できないこともあります。ただ、暴力で解決する行為は、年齢を問わず、いかなる理由があろうとも許されることではありません。学校では、「理由があるから」ということで暴力行為を肯定することはありません。子どもに適切な表現で自分の気持ちを言葉で伝える力を身に付けさせ、コミュニケーション能力の向上を図っていきます。これは、子どもたちが社会を生き抜くために必要な力です。「学校だけ」「家庭だけ」で身に付けさせることは困難なので、これからもご家庭と連携しながら指導をしていきます。

いじめの定義について

「いじめ」とは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の間関係にある他の児童生徒が行う心理的または物理的な影響を与える行為であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」(いじめ防止対策推進法)なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

「いじめ」の中には、犯罪行為として取り扱われるべきと認められ、早期に警察に相談することが重要なものや、児童生徒の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるような、直ちに警察に通報することが必要なものが含まれる。